

国立障害者リハビリテーションセンター 発達障害情報・支援センター
令和5年度支援者向けセミナー 実施要綱

発達障害児者と家族が安心して暮らしていける地域社会の実現に向けて
～地域の強みと課題を見える化し、一歩踏み出すために～

1 趣旨

発達障害のある方たちとご家族への支援においては、それぞれの地域でライフステージを通じた支援体制の整備が進められているところである。地域の実状に応じた効果的な支援体制づくりには、福祉、保健・医療、教育、労働の多領域の関係機関が、各々の役割を認識した上で横断的連携を図り、地域の支援システム構築に向けて継続的に取り組むことが求められる。取組を進める上では、まずは各自治体の現状を把握し、それぞれの地域の強みと課題を視覚化する事が必要となる。

本セミナーでは、発達障害児者等の支援体制を分析・点検するための地域評価ツールとして開発された「発達障害の地域支援システムの簡易構造評価：Q-SACCS」を用いた地域支援体制づくりについて取り上げ、各地での導入や実践に向けて一歩踏み出すための機会とする。

2 主催

国立障害者リハビリテーションセンター(企画・情報部 発達障害情報・支援センター)
厚生労働省

3 後援(予定)

文部科学省、こども家庭庁、国立特別支援教育総合研究所(発達障害教育推進センター)
発達障害者支援センター全国連絡協議会

4 日時

【第Ⅰ部(オンデマンド)】 令和6年1月中旬(予定)～令和6年3月末日
【第Ⅱ部(ライブ配信)】 令和6年1月31日(水)15:00～17:15

5 会場 WEB開催

6 参加資格

【第Ⅰ部】①を満たす方 【第Ⅱ部】①および②を満たす方

①発達障害児者支援に従事しており、関連情報(Q-SACCS)サイトを受講迄に視聴することが可能な者

②発達障害者支援センター職員、発達障害者地域支援マネジャー、行政職員

7 セミナー参加費 無料

8 申し込み 下記 URL または発達障害ナビポータル上の申込フォームにて事前申込み

URL: <https://hattatsu.go.jp/2023seminar01/>

9 申込締切 **第Ⅰ部**: 令和6年3月20日(水・祝) **第Ⅱ部**: 令和6年1月24日(水)

【お問い合わせ】

国立障害者リハビリテーションセンター 企画・情報部
発達障害情報・支援センター (与那城、石坂)

TEL 04-2995-3100(内線 2590、2596)

mail: hattatu-isc@rehab.go.jp

発達障害児者と家族が安心して暮らしていける地域社会の実現に向けて
～地域の強みと課題を見える化し、一歩踏み出すために～
<プログラム>

■【第Ⅰ部】 令和6年1月中旬(予定)～令和6年3月31日 (オンデマンド配信)

(5min)	開会の挨拶 山脇 かおり(発達障害情報・支援センター センター長)
25×3 (75min)	【行政説明】 ・厚生労働省 社会・援護局 障害保健福祉部 発達障害対策専門官 西尾 大輔 ・文部科学省 特別支援教育課 特別支援教育調査官 加藤 典子 ・こども家庭庁 支援局 障害児支援課 障害児支援専門官 杉本 拓哉
10×2 (20min)	【情報提供】 ・国立特別支援教育総合研究所 発達障害教育推進センター ・国立障害者リハビリテーションセンター 発達障害情報・支援センター
(90min)	【基調講演】 ※事前収録 「発達障害のある子どもと家族を支援するための地域支援体制づくりに向けて ～Q-SACCSを使った地域診断と、地域ケアパスの作成に向けて～」 講師:本田秀夫先生(信州大学医学部 子どものこころ発達医学教室 / 長野県発達障がい情報・支援センター センター長)

■【第Ⅱ部】 令和6年1月31日(水)15:00～17:15 (当日のライブ配信のみ)

(5min)	開会の挨拶 山脇 かおり(発達障害情報・支援センター センター長)
(120min)	【講演】 「Q-SACCS を用いた地域での支援体制づくりについて」 こども家庭庁 支援局 障害児支援課 発達障害児支援専門官 今出 大輔 【座談会】 Q-SACCS を活用した市町村支援を既に取組んでいる自治体と、これから本格的に 取組みたいと考えている自治体のグループにわかれて意見交換 【コメント】 厚生労働省(山根発達障害施策調整官、西尾発達障害対策専門官) 【まとめ】 こども家庭庁(今出発達障害児支援専門官)
(10min)	事務局より連絡(今後の定期的な情報交換に向けた呼びかけ) 閉会